

今週（11月6日から11月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が367～369兆円の推移と大きな変動の無い中、無担保コールO/N物加重平均レートは▲0.04%台半ばで推移した。

無担保コールO/N物は、週初は様子見ムードから始まり、レートの低下も予想されたものの、その後は証券業態を中心に調達姿勢が強まったことから、全体的に下げ渋る展開となった。加重平均レートは、週を通して▲0.04%台半ばと、横ばい圏で推移した。業態別では週を通して地銀業態で▲0.05～▲0.035%、証券業態で▲0.05～▲0.045%、都銀・信託業態で▲0.06～▲0.05%での出合いが見られた。ターム物は週を通してショートタームで▲0.03%台の出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、9日に2W物で8,000億円オファーされ、期落ち額1,311億円に対し、結果は1,310億円と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、週初から投資家の資金調達ニーズが弱く、証券会社の玉確保の買いが優勢で▲0.100%を下回る出合いが中心となった。

6日のS/N(11/8-9)は▲0.155～▲0.140%の出合い。7日のS/N(11/9-10)は▲0.140～▲0.125%の出合い。8日のS/N(11/10-13)は短国6M物の発行要因があったものの、レートは上がり▲0.130～▲0.120%の出合い。9日のS/N(11/13-14)は短国3M物、30年債の発行要因により▲0.115～▲0.110%の出合いで小幅にレート上昇。10日のS/N(11/14-15)は▲0.115～▲0.100%の出合いとなった。

SCIは個別銘柄では5y130～133、10y335～348、20y160～162、30y50～56、40y9～10などのカレント近辺の銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、担保需要や海外勢の買いからか、2回実施された入札も含めて全般的に強含みの相場展開となった。

新発の入札は8日に6M物、9日に3M物の入札が実施された。6M物は、WI取引において▲0.225%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.2376%、按分落札利回▲0.2276%と、強い結果となった。セカンダリーでは、少額での出合いにとどまったものの、強含みで推移し、▲0.245～▲0.24%で出合いが見られた。3M物は、WI取引において、▲0.29～▲0.27%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.278%、按分落札利回▲0.2549%と、強い結果となった。テールが流れたことによって、セカンダリーでは、▲0.26～▲0.255%の出合いと、小甘く推移した。

10日に実施された短国買入オペは、予想の下限となる1,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.035%、按分落札利回較差+0.030%と、甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、電機・鉄鋼・石油・商社から大型の発行案件が見られたものの、月前半であることから件数は少なく、償還と発行がほぼ同額程度になる等、週を通して落ち着いたマーケットとなった。発行レートは、a-1格相当銘柄で概ね0%近辺となった。発行量の少ない一部の銘柄では浅いマイナス圏での発行も見られた。

7日にはCP等買入オペが2,000億円で実施され、平均落札レート0.000% 按分落札レート▲0.001%と、按分レートが前回比（前回按分▲0.004%）で上昇する結果となった。オファー額が減額されたことに加え、9月に一旦減少した市場残高が10月以降急速に増加していることから、一定の売却ニーズがあったものと思われる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
11/6（月）	22,548.35	0.020	114.37	△ 0.046	△ 0.110	3,673,200
11/7（火）	22,937.60	0.025	113.77	△ 0.045	△ 0.109	3,683,900
11/8（水）	22,913.82	0.020	113.78	△ 0.044	△ 0.107	3,691,300
11/9（木）	22,868.71	0.025	114.00	△ 0.044	△ 0.111	3,689,000
11/10（金）	22,681.42	0.035	113.36	△ 0.044	△ 0.100	3,688,500

来週（11月13日から11月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/13（月）	10月の企業物価指数(日銀 8:50)				
11/14（火）		5Y 22,000億円 11/16発行	交付税借入 10,500億円 11/24借入		10月の米生産者物価指数 7-9月期のユーロ圏GDP2次速報 10月の英消費者物価指数
11/15（水）	7-9月期のGDP1次速報(内閣府 8:50) 9月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 23,000億円 11/20発行			9月の米企業在庫 10月の米消費者物価指数 10月の米小売売上高
11/16（木）		TB3M 44,000億円 11/20発行	20Y 10,000億円 11/20発行	国有林野借入 739億円 11/27借入	10月の米鉱工業生産・設備稼働率 10月のユーロ圏消費者物価指数改定値
11/17（金）					10月の米住宅着工件数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/13（月）	1,100	▲ 20,200	▲ 19,100	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,300 ▲ 100 200	1,300 100 	200	▲ 18,900	TB3M発行▲44000償還36300 30Y発行▲8000
11/14（火）	1,000	▲ 3,000	▲ 2,000	国債買入 短国買入		7,100 1,000	8,100	6,100	源泉所得税揚げ 社会保障費等
11/15（水）	1,000	▲ 3,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	2Y発行▲22000償還22100 個人向け3・5・10Y発行▲2800 個人向け3Y償還200
11/16（木）	▲ 1,000	▲ 26,000	▲ 27,000				0	▲ 27,000	労働保険料揚げ 5Y発行▲22000 交付税借入▲10500期日10500
11/17（金）	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
週 間 合 計	1,100	▲ 50,200	▲ 49,100	—	▲ 1,200	9,500	8,300	▲ 40,800	

11/13は日銀予想、11/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終日を挟む週となる。前半は調達サイドの積み調整によるレート変動が予想され、新積み期入り後は落ち着いた展開が予想される。
 レボ市場は、新積み期に入るものの、投資家の資金調達ニーズは引き続き弱いと見られ、足元は▲0.130～▲0.095%程度で推移すると予想する。
 短国市場は、15日に1Y物、16日に3M物の入札が実施予定となっている。引き続き海外勢の動向や、短国買入オペが注目される。
 CP市場は、月下旬に差し掛かることから、徐々に資金調達ニーズが出てくると見られる。ただ、引き続き0%近辺では投資家の運用ニーズもあり、レートは横ばい圏での推移が予想される。16日にはCP等買入オペが前回と同額の2,000億円で実施予定となっており、落札水準が注目される。
 主要なイベントとしては、国内では15日に7-9月期実質GDP1次速報、海外では14日にユーロ圏7-9月期GDP2次速報、15日に10月の米国CPI、10月の米国小売売上高などの発表が予定されている。

●本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 ●本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様に自身でなされますようお願い申し上げます。
 ●金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。